

平成29年度 日立市教育研究会先進校等調査派遣研修会報告書

日立市立金沢小学校 教諭 江渕 良子

- 1 派遣期日 平成29年7月22日(土)
- 2 研修先 学校名 東京学芸大学附属小金井小学校
所在地 東京都小金井市貫井北町4-1-1
- 3 研修内容

第3回 算数の会 授業研究会
大会テーマ 深い学びのある授業—日々の授業にいかせる教科書問題を題材に—
大会内容 提案授業(3年小数) グループ協議 パネルディスカッション
ワークショップ 講演

(1) 公開授業

- 第3学年・算数科 指導者 東京学芸大学附属小金井小学校 中村真也先生
- 単元名 「小数」(東京書籍3年)
- 目標 はしたの部分の量は、1つの数量を10等分した1つ分の大きさをもとに小数を用いると、よりの確にその大きさを表せることを理解する。

(2) グループ協議

参観者が4つの班に分かれ、授業についての感想を述べ合う。
よかったこと…生活場面を想起させ、実際に水を使い必要感をもたせたこと
難しかったこと…3cmだから3dLと答えた子は多かったが、「1Lを10等分する」
小数の考え方に発展しなかった
導入だったので教えることと考えさせることが混ざってしまった

(3) パネルディスカッション

司会 加固希支男先生(小金井小)
パネラー 増本 敦子先生(西田小) 宮戸 和哉先生(緑小)
中村先生反省…問いと共有のさせかたをどうすればよかったのか
深い学びを子どもとどのように作っていけばよかったのか
パネラーの意見…課題の明確化が必要「はしたをはっきり表すには？」
子どもの「なぜそう考えたか」を問い返し、共有することが必要
3dL=0.3Lではなく、「もとにする大きさを分けて考えれば、
はしたの大きさは表せる。」を深い学びのあるべき姿にしたかった。

(4) ワークショップ

- 「ちょっとの工夫でよりよい授業へ」杉並区立久我山小学校 岡部 洋右先生
- ①具体物の操作活動をする
(教科書の問題 5年)
プラム12個とバナナ8本をそれぞれ同じ数ずつ何皿かに分けます。
プラムもバナナもあまりなく分けられるのは、何皿の時でしょうか。
 - ②問題を「～でない」と逆に問う
(図形を子どもに示して)「三角形でない図形はどれでしょう」
 - ③選択の問題にする
正しい、または間違いを選択させた時に、その理由を問うことができる。
 - ④誤りを提示して正しいかどうか問う
理由を述べる必要が出てくるため、問いを強くもたせることになり、考え方を説明する必要性をもたせることにつながる。
 - ⑤問題文の一部を□にする
子ども自身に予想、決定させるので問題に主体的に関わることができ、問題の構造を理解させることにつながる。簡単な場合に置き換えて考える力も養える。
ジンベイザメの体長は12mもあるそうです。乗用車の長さを□mとすると、ジンベイザメの体長は、乗用車の長さの何倍でしょうか。
 - ⑥問題を少しずつ見せる
図形を少しずつ見せる…形を予想させながら図形を認識させることができる。
数字を後から記入する…今までの学習との違いを明らかにするために、数字に注目

させ解決意欲を高めることができる。

⑦条件不足・過多の問題にする

問題文に情報が足りないことを気付かせて、足りない情報を示していくことにより問題の意味や数量の関係をより強く意識づけること、解決意欲を高めることができる。

(5) 講演「深い学びのある授業」

国立教育政策研究所教育課程研究センター学力調査官 笠井健一先生

①学習指導要領改訂の方向性

何ができるようになるか

何を学ぶか

どのように学ぶか→主体的・対話的で深い学び

答えのない課題に主体的に関わり合い対応できる子どもにしたい

②主体的・対話的で深い学びの実現

浅い学びとは何か？を考えていくと、目の前にいる子どもに変わってほしい、こうなってほしいことが見えてくる。

③授業構想を考える

・問題場面

・学習のねらい→「はしたの表し方を考えよう。1つの単位で表せないかな。」

今日子どもが何ができるようになることを意図しているのか

子どもが考えたくくなるような工夫

教えること（1 Lを10等分した1つ分を0.1 Lということ）と

考えさせること（この量を小数で表せないかな。）を分けておく

・クラスの子どもの最初の解決の様子→子どもの実態に応じた学び

長さをはかっただけの子ども

3 cmは3 d Lだと書いている子ども

全体が10 cmでその中の3 cmなので3 d Lと書く子ども

全体は1 Lでそれを10等分してそのうちの3つ分だから3 d L

・適切な言語活動の選択→どの考えをどの順で取り上げるのか。「あっそうか、分かった」と気付かせるための深める発問が大切。

子どもの反応を予想し、こんな場合はどんな問いをするか考えておく。

・学習のまとめ→ねらいに正対したまとめ

・ねらいを達成したかどうか評価する問題→学び合いをすることで指導して、その結果をその時間で評価する。指導と評価の一体化

・ねらいを達成した児童の解決→解ければいいのか、式がかければいいのか、説明まで必要か

・クラスの子どもが最後にもってほしい感想

4 感想

・「深い学び」は教師が教えるものではなく、主体的な学び・対話的な学びを通して新たな知識・技能を見いだしたり思考や態度が変容することであるということが分かった。

・公開授業のビデオを見ながら笠井先生のご指導の下、参加者全員で児童の発表に対して「どんな発問をすればよかったのか」を考えたことは、大変ためになった。繰り返し発問の重要性を痛感した。

・子どもにつけさせたい力を考えて授業をすることが大切だと分かった。そのためには子どもの実態把握を行い、子どもの発表することを予想して、発問を準備しておくことが大切である。

・ワークショップは指導案をかくときに参考にしたいと思った。子どもの興味を引き出す問題は、子どもが主体的に問題に関わることができるのだと分かった。